

らず、秋高の奮起を求める声が高くなっています。

次に部活動ですが、運動部加入率はほぼ四十五%前後で推移。全県総体は男子テニスが団体、シングルス、ダブルスで優勝、インターハイ出場。登山は二位でインターハイ。剣道団体二位、卓球団体、ダブルス三位、ラグビー三位、ボート男子シングルスカル、ダブルスカル二位、また少林寺拳法は団体演武一位で全国

私は、平成二十年八月十七日開催された県立秋田高等学校同窓会において、ご逝去された前会長の辻兵吉氏の後を受け後任会長に選任されました。

立派な先輩が数多くいらっしゃる中で、長い歴史と伝統を誇る秋田高等学校同窓会長として、果たして適任であるかどうか忸怩たる思いがありますが、同窓会員の皆様のご鞭撻とご協力を得て、同窓会のために全力を尽くしたいと思いますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

私は秋田高校昭和三十四年卒業です。出身は鹿角市ですが、田舎にいてはものにならないと両親が思ったのか、中学校から秋田市に来て秋田高校に入学しました。私が在学

大会に出場。文化部では放送委員会朗読部門で最優秀賞、将棋男子団体優勝で全国大会出場、放送委員会の研究発表部門と新聞委員会も全国大会出場です。これから文芸部が短歌甲子園に出場します。

皆さまのご指導を得、今後も本校発展のために尽力したい。

◎報告

最初に仙波昭彦事務局長から資料に基づいて会務事業報

中は、一学年約五百名で十クラスありました。女子生徒は約二十名で十名ずつに別れ、男女共学は二クラスでした。現在は在校生九百四十二名のうち、女子生徒は三百八十名ということですので四割近くを占めていることになり、隔



会長就任に当たって

秋田高等学校同窓会

会長 豊 口 祐 一

世の感があります。

私は秋田高校卒業後、大学を出て弁護士になり、約三年間東京で弁護士として働きましたが、長男ということもあって父から秋田に帰ってくるようにいわれ、昭和四十八年に秋田市に戻り、法律事務所

告が行われ、次いで常置委員報告では、企画・佐々木博良、財政・速水洋子、名簿・工藤雄一、広報・高島清子の各委員長からそれぞれに関する事項の報告がなされた。

◎議事

最初に平成十九年度収支決算について事務局長より説明され、久米田和太郎監事の監査報告があり、審議承認された。次いで平成二十年事業計画・収支予算(案)が提言

を開き、現在に至っております。

私は同窓会では財政委員会の委員長を長らく務めておりましたが、平成七年からは、同窓会員の皆様から会費を納入していただき、同窓会を運営するようになりました。同

され、これも審議承認された。質疑応答があり、次いで役員改選に入ったが山谷会長代行から「役員改選については平成十五年の方式で選考委員会を作っておこないたい」旨提唱され、秋元辰二氏(昭三十七年卒)、小玉康延氏(昭三十七年卒)、山谷会長代行、速水財政委員長、工藤名簿委員長、五人が選考委員となり、会長に豊口祐一(新任・昭三十四年卒)、副会長に山谷浩

図り、より多くの会員に同窓会への関心を持っていただき、会費も納めていただけるようにして、同窓会運営の財政的基盤を充実させなければなら

ないと考えております。平成二十年十月には同窓会名簿第三十九号を刊行いたしました。が、辻前

会長は常々秋田高校の卒業生として、お互いに心のつながりを強くするために

は同窓会名簿は欠かせないものであると話しておられましたが、私も同感です。

私は同窓会長に就任後、各常置委員会の委員の方々にそれぞれ立場から同窓会を活性化させるための方策を考えた下さるようお願いしており

二(昭二十年四卒)、高橋智徳(昭四十年卒)、藤盛節子(昭四十二年卒)、三浦廣巳(新任・昭四十四年卒)、菊谷一(昭四十五年卒・校長)、監事に久米田和太郎(昭三十八年卒)、鎌田壽(昭四十二年卒)、高橋正毅(昭四十五年卒)各氏が推薦され、承認された。

総会終了後、記念講演、懇親会が行われ今年度の同窓会総会が閉じられた。

ですが、会員の皆様からも同窓会を活性化させるための忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

同窓会の今後がどのようにあるべきかは難しい問題ですが、会員の皆様のご意見を十分お聞きし模索しながら、時の流れに遅れないように、また文武両道に秀でることをモットーとする智、徳、勇の三剣の校章に恥じないように、秋田高校及び同窓会の一層の発展を期して努力したいと考えております。会長を補佐してくださる山谷、高橋、藤盛、三浦、菊谷の各副会長ともども頑張ってくださいと思いますので、会員の皆様のお一人層のご支援とご協力をお願い申し上げます。就任に当たってのご挨拶とさせていただきます。